

北島南小学校：「学力・学習状況」改善プラン

1 学力向上推進員 職・氏名（教諭 ※ ※）

2 学力向上検討委員会構成

職名	氏名	職名	氏名

3 現状・課題

学 力	<p>本校はこれまで、国語科では、読解力を身につけるための読書指導や、表現力を身に付けるための音読指導、聞く力を身につけるための読み聞かせなどを行ってきた。算数科では、ドリル学習による基礎的・基本的な知識・技能の習得や、T.T.指導による個に応じた指導の充実を図ってきた。その結果、昨年度の全国学力・学習状況調査の算数科では、ほとんどの問題の正答率が、全国の平均を上回っているという結果が得られた。</p> <p>しかし、国語科の「活用」に関する問題については全国平均を大幅に下回っている問題がみられ、特に文章力を問われる問題が弱いことが明らかになった。</p> <p>そこで、昨年度の結果から、今年度の学力についての課題を以下のように分析した。</p> <p><国語>①文章を読み、必要な内容や大事な箇所を的確に捉える力が弱い。 ②自分の思いや考えを、根拠や理由を述べながら筋道立てて表現する力が弱い。</p> <p><算数>①与えられた条件を基にして考え、筋道を立てて解決方法を導き出す力が十分でない。 ②図形の性質を使い、自分なりの解決方法を導き出すことが難しい。</p> <p>国語科においては昨年度に引き続き、読解力と表現力に課題があるため、昨年度の取り組みに改善を加え、引き続き行うことにする。また、国語科で言語活動を充実させることは、他の教科での思考力や表現力への基礎的な力にもなると考え、言語活動の充実にも取り組んでいきたい。算数科においては、本年度も引き続き、知識や情報を活用し問題解決にあたる授業や、そのための教材開発を行っていきたい。</p>
学 習 状 況	<p>本校児童は、全体的にみると学習への取り組みはまじめで、生活習慣も身に付いている児童が多い。昨年度の学習状況調査の結果でも、全国平均を上回っている項目が多く見られた。特に自尊感情や規範意識に関しては全体的に高い傾向にある。</p> <p>一方、学習に関する関心・意欲・態度での「読書が好き」、基本的生活習慣での「朝食を毎日食べている」「学校に持って行くものを、事前に確認する」「平均の睡眠時間が8時間以上」は、まだ十分とはいえず、昨年度に引き続き課題として取り組む必要がある。</p> <p>これらのことから、本校児童の傾向としては、日々の生活に満足し、達成感を感じながら生活している児童が多いことがうかがえるが、自分のことを自分自身で律する力が十分でなく、そのことが学力に影響しているのではないかと考えられる。今後は、自分自身で生活の計画を立てさせることなどを通して、学習状況のさらなる改善を図っていきたい。</p>

4 目標等

(1) 学力について

重点目標：既習の知識・技能を活用し、課題を解決していく力をつける。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
根拠や理由などを明らかにして、自分の考えを相手によく分かるように伝える表現力を身につける。	「話す」「書く」それぞれで、学級全体の70%の達成率をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学習活動の中で自分の考えを筋道を立てて文章に書いたり、話したりする場や発表する場を進んで設ける。 ・各学年に応じた話し方や書き方を具体的に指導する。 	4・3・2・1	

国語科において、漢字やことばの基礎の習熟を図り、文章を正確に読み取る力を付けるとともに、自分の意見を書いたり、話し合ったりする能力をつける。	学期末の国語のテストの正答率が、下学年で 85 %、上学年で 80 %以上をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 各学年での漢字の読み書き、音読カードを継続的に実施する。 国語辞典等を活用する機会を増やす。 授業の中に話し合い活動を意図的に取り入れる中で「話す」「聞く」活動を活発化し思考力を養う。 	4・3・2・1	
各教科の学習において図や表、写真などの資料から必要なことを読み取ることができるようにする。	学級全体の 80%の達成率をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 図や表、写真などの資料を取り入れた学習展開を組み立て、資料から読み取ったことをメモし、話し合う機会をつくる。 ICT を積極的に活用していく。 	4・3・2・1	
算数科では、問題解決の過程を筋道立てて考えたり、表現したりする力を育てる。	数学的な思考力を評価する問題の正答率が、下学年で平均 85 %以上、上学年で 80 %以上をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 朝のチャレンジタイムで発展的な文章題に取り組みせ、思考力を養う。 実物や模型などを活用する場面を増やしたり、問題場面を経験から想起させたりすることによって、学びと生活が結びつくようにする。 板書とノート指導との一体化を図り、ノートの記録が問題解決の手助けになるようにする。 	4・3・2・1	
基礎的な計算の習熟を図り、身につけた知識や技能をもとに、問題を解いたり、表現したりする能力を身につける。	学期末の算数のテストの正答率が、下学年で 85 %、上学年で 80 %以上をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> T・T 指導を中心として個に応じた指導方法の工夫改善を行う。 効果的なノートの使い方を検討し、ノートの使い方を適切にすることで、学習の振り返りを確実にを行う。 「家庭学習の手引き」などを利用し、家庭学習による学習の習熟を図る。 	4・3・2・1	

(2) 学習状況について

重点目標：学校や家庭で自主的に計画を立て、学習を進めていく態度や意欲を育てる。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
家庭学習の習慣をつける。	目標家庭学習時間を 低学年 30 分、 中学年 45 分、 高学年 60 分 に設定し、目標達成率を 80 %とする。	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の手引き」を参考にさせながら、児童が自主的に家庭学習に取り組むように指導していく。 家庭と連携しながら、学習習慣づくりを図っていく。 	4・3・2・1	

早寝・早起きを定着させ、睡眠時間をしっかりとるようにする。	平日の睡眠時間が8時間以上の児童が80%を超えるようにする。	・保健学習、家庭科の学習、学級指導等で基本的な生活習慣の大切さを指導する。	
			4・3・2・1
宿題や学習用具の忘れ物がないようにする。	80%以上の児童が宿題を提出し、授業に必要なものを忘れないようにする。	・連絡帳を活用して、学校に持っていくもの確かめる習慣を身につけさせるよう、家庭と連携をとる。	
			4・3・2・1
読書に親しませるとともに、読書量の増加を図る。	1日の読書時間を10分以上とする。	・毎週金曜日の朝の活動での読書活動を充実させ、読書への意欲をもたせる。 ・家庭での読書習慣の定着のため、家庭と連携して「10分間読書」を推進する。	
			4・3・2・1
家庭に向けて学校の情報を積極的に発信し、相互理解を図る。	月に1回以上、学校からの情報を発信する。	・学校での取り組みを参観日、学校便り、学年便りなどを利用して保護者に公開し、連携を図る。	
			4・3・2・1

※評価欄の上段には、各具体的目標における数値目標の達成状況について記入する。下段には、達成状況を「4 十分できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった」で判断し、該当番号に○を付ける。